

新潟県立看護短期大学の閉学に寄せて

新潟県立看護短期大学 学長 中 島 紀恵子



平成6年に、新潟県民の大きな期待を負って開学した新潟県立看護短期大学の栄光ある歴史が静かに幕を降ろそうとしています。本学が刻んだ歴史の記録としての記念誌は、開学年から発刊されてきた「新潟県立看護短期大学紀要」が最もふさわしいと思います、昨年と今年の2年間特集号を組んでまいりました。

100余年に及ぶ看護教育の歴史のなかで、学校教育法第1条項に位置付けられる学校において看護教育が実施されることを、関係者たちは長い期間熱望してきました。その努力の結果、1970年ころより国公私立の短期大学の設置が進みました。この時期、看護短期大学に課せられた課題は、従来の企業内養成の枠から脱皮した教育を実施し、一般教育をも重視した高度な専門教育を施すことでありました。そのひとつとして本学が開学されました。新しい学校教育制度のなかで教育プログラムを準備し県民や関係者の大きな期待のなかで看護教育を進めていくことは、喜びもご苦勞も多かったことは十分に想像されることです。

このような厳しいなかを本学の教職員一同は、新潟県の看護を担うリーダーを育てるために研究を重ね工夫を凝らし新しい教育に終始努力を重ねてまいりました。平成8年度から平成16年度までの卒業生・修了生は、看護学科生792名、地域看護学専攻科生350名、助産学専攻科生112名、合計1254名になりました。その収穫として、62%の卒業生たちが県民の期待にこたえ、保健医療福祉施設や地域で活躍をしています。これら卒業生たちの活躍の様子を見聞する度に、本学11年間の存在意義を身に沁みて感じます。

本学設置に奔走くださった県当局の関係者の方々、栄光の歴史を築かれた教職員の方々にあらためて敬意を表し、本学最後の学長として心より感謝致します。この歴史は永遠に残ります。しかし、時は流れ、看護教育にも変革の波が押し寄せてきました。

新しい時代にバトンタッチする時がきましたが、本学の歴史は新しい教育にきっと生かされていくことでしょう。その歴史を大切に受け継いでいきたいと願っています。

この記念誌をひもときながら、その感を強めていくことになると思います。そして「われわれは、いつも『過渡期』に、『時代と時代の間』に生きている」(レヴィット「世界と世界史」)ことを思うことでしょう。

(新潟県立看護大学 学長)

2004年12月6日